

研究主題

未来の日本を担う納税者として社会に貢献できる生徒の育成

副題

税務署等の関係機関と連携した、年間を通しての計画的な租税教育の実践を通して

1 主題設定の理由

(1) 現代社会の様子より

現代社会は、少子高齢社会が進み、人口が減少し、労働人口も減少している。そのため、内閣府が2017年に出した「高齢社会白書」によると、1950年時点では、12.1人で1人の高齢者を支えていたのが、2016年時点では、2.2人で支えているとあった。さらに、今後の展望として、2065年の予想人口比率で考えると、1.3人にまで減少するとある。これは、およそ4人で3人を支える計算になる。さらに、国債残高も現在、1053兆4676億円と試算されており、これは国民1人当たり850万程負債を抱えている計算になる。これらを加味すると、国民1人1人が税金をしっかりと納めて、住み良い国を自分たちで治めるという自覚をもたせることが大切である。

(2) 国税庁より

国税庁では、次代を担う生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心を持ち、さらには自覚を育てることを目的に、租税教育の充実に向けて支援を行っている。

本来、租税教育は社会全体で取り組むべきものであり、健全な納税者意識のより一層の向上に向け、今後とも官民が協力して租税教育の更なる充実を目指す必要があるとされている。

(3) 宮崎県租税教育より

宮崎県の租税教育推進協議会では、「租税教育は社会全体で取り組むべきもの」という考えのもと、次代を担う生徒に納税者として社会や国のあり方を主体的に考えるという自覚を育てることを目的としている。また、税に対する理解が国民各層に広がっていくことを願っている。

本来その年の歳出は、その年の税収で賄うべきだが、毎年の予算では、歳出全体の6割程度しか賄えていない。この結果、残りの4割は、公債金(借金)に依存しており、日本は膨大な財政赤字を抱えている。今後、租税教育の重要性は、益々高まっていくものと思われる。

(4) 本校の現状より

税金について事前アンケートを行ったところ、「税金を払いたいですか。」という質問に対して、およそ8割の生徒が払いたくないと答えていた。これは、税に対する正しい認識や知識、そしてたくさんの恩恵を受けていることを知らないことがわかる。また、税に対する正しい知識も乏しく、アンケート結果は以下のとおりである。

① 国民の三大義務は何ですか。

・完答者 (8%)・1問間違い(12%)・
全問間違い(36%)・2問間違い(46%)

② 消費税は何%ですか？

・正解(88%)・間違い(12%)

③ 消費税以外であなたが知っている税金には何がありますか。

- ・所得税 (8%) ・酒税 (4%)
- ・住民税 (2%) ・たばこ税 (4%)

④ 税金は何に使われていますか。

- ・教育 (15%) ・年金 (2%)
- ・公務員の給与 (20%)

このように租税についてほとんどの生徒が理解できていないことがわかる。このことを踏まえ、本研究では、租税教育について税務署や法人会などの機関とタイアップして生徒に税に対する正しい知識と理解を深めさせ、納税者としての自覚をもたせるようにすることをねらいとしている。

2 研究の目標

次代を担う生徒に納税者として社会や国のあり方を主体的に考えるという自覚を育てる。

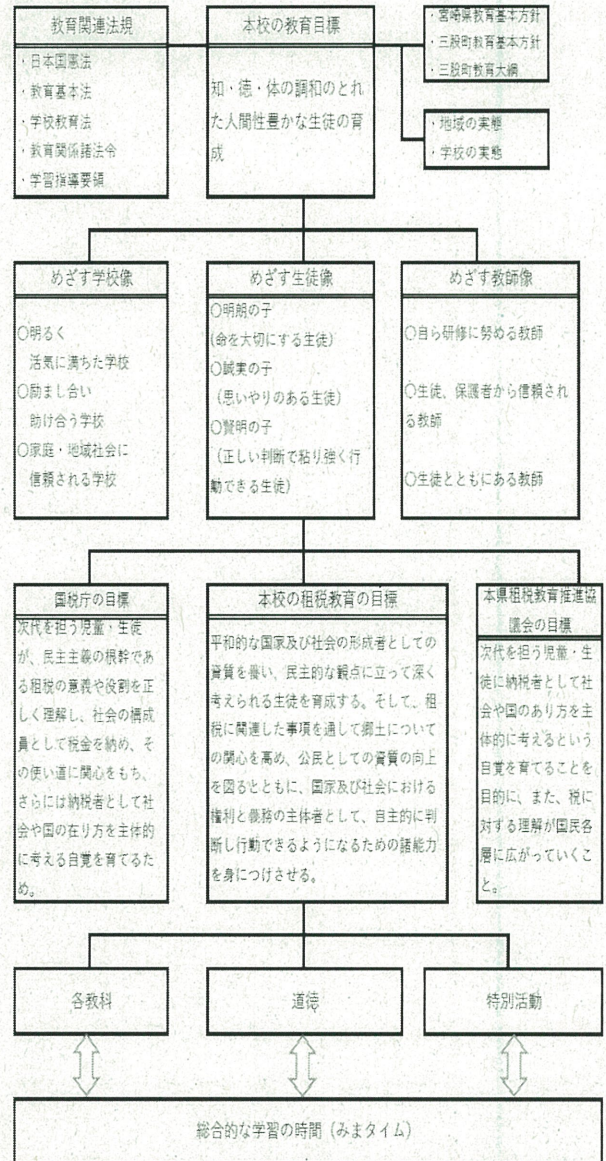
3 研究の仮説

年間を通して、関係機関と連携しながら計画的な租税教育を進めれば、生徒は租税に対する正しい知識を身につけ、納税者としての自覚をもち、未来を担う納税者になるであろう。

4 研究の内容

- (1) 年間指導計画の作成
- (2) 都城税務署による租税教室の実施
- (3) 租税作品の作成
- (4) 租税作品の展示等
- (5) 法人会による租税教室の実施
- (6) 租税通信の発行

5 研究の全体構想



6 研究の実際

(1) 年間指導計画の作成

まず生徒に税に対する認識や考え方を改めさせるために、1年間のスパンを通してどのような手法でせまるかの計画を立てた。その中で、生徒に租税に対する理解を深めさせるために、税務署や法人会などの機関と連携することを考えた。また、受け身だけでは身に付かないので実際に作文や標語、短歌、絵などを作成させることで考え方を含め、税の必要性を感じ、納税者としての自覚が芽生えることを期待した。

租税教育実施計画		
実施月	事項	内容
4月	・年間計画の作成	・租税教育推進委員会の設置 ・年間計画の作成
5月	・校長・担当教諭会 ・租税通信No.1作成	・校長・担当教諭会に出席 ・租税通信を作成し、生徒や保護者に知らせる。
6月	・社会科部会	・租税関係資料の収集と整備
7月	・第1回租税教室 ・租税作品募集 ・租税通信No.2作成	・第3学年を対象とした講話 ・税についての「作文」、「短歌」、「標語」の募集 ・租税通信を作成し、生徒や保護者に知らせる。
8月	・租税作品作成指導	・租税作品制作の指導・助言
9月	・租税作品審査 ・租税作品提出 ・租税通信No.3作成	・租税作品の校内審査 ・優秀作品の提出 ・租税通信を作成し、生徒や保護者に知らせる。
10月	・校内展示	・校内に税のコーナーを設け、租税作品や租税に関するニュース等を展示
11月	・租税教室に向けての指導案検討と打ち合わせ ・租税通信No.4作成	・社会科の教諭、法人会の方と12月に行われる租税教室の指導案検討と事前打ち合わせ ・租税通信を作成し、生徒や保護者に知らせる。
12月	・社会科授業 ・実践報告書の途中作成	・法人会の方と、3年生、税に関する授業の実施 ・実践報告書の作成のために資料を集め、作業に入る。
1月	・今年度の反省及び来年度の計画 ・租税通信No.5作成	・1年間の取組の反省を踏まえ来年度の計画を作成 ・租税通信を作成し、生徒や保護者に知らせる。
2月	・今年度の反省及び来年度の計画	・今年度の反省及び来年度の計画
3月	・実績報告書の作成 ・租税通信No.6作成	・実績報告書の作成と提出 ・租税通信を作成し、生徒や保護者に知らせる。
その他 推進体制等	各教科との連携を図るため、租税教育推進委員会を設置し、全職員の共通理解を図る。 校内に税のコーナーを設置し、租税作品や租税に関するニュースや情報を展示する。	

【図1】 年間指導計画

(2) 都城税務署による租税教室の実施

ア 実施にあたってのねらい

税に対する正しい知識と理解を深めさせることと、夏休みに3年生を対象に租税作文を募集するために3年生を対象に実施した。

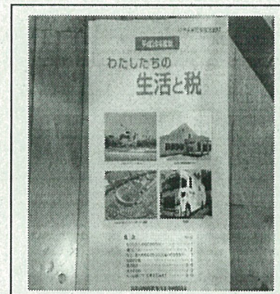
イ 実施の様子

租税教室では、都城税務署の益田係長に来校していただき、実施した。

租税教室では、まず「税金を払いたいですか？」という問いに対して、手を挙げさせると、ほとんどの生徒が「払いたくない」方に手を上げた。

租税教室では、日本の歳入、歳出についての説明があった。その中で生徒が理解しやすいように、日本の国債がどれだけあるか、富士山や、大気圏に例えて話があった。また、その後アニメ「税のない世界～アナザーワールド」を見て税の必要性について考えさせた。

租税教室終盤では、「税を払いたいですか」という問いに対してほとんどの生徒が「払いたくない」という方に手を上げ、変容が見られた。



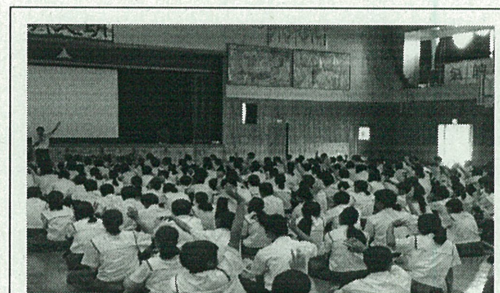
【写真2 租税教室資料】



【写真3 租税アニメ】



【写真4 都城税務署益田係長】



【写真5 租税教室の様子】

ウ 実施後の生徒の感想

・今回の授業で、今までの自分が恥ずかしいと思いました。今まで私は、税金が増加する度に、「はあ、また増えるのか、嫌だな」と思っていました。しかし、今回の授業での話やDVDで学習している内に税金を払わないで困るのは国民、自分達なんだなと思いました。もし、自分が税のない世界

にいたとしたら、中学生でも働かないといけなし、年金がないため年老いた方々も毎日働きに行かないといけなし、警察や消防などもお金を払わないとすぐに動いてくれないからそう考えると、火事などになってしまった時は、税金を払う以上のお金がかかってしまうと感じました。だから税金があつて良かったと思います。

・今まで税金と言われると固いイメージがあつてあまり理解できていない部分がありました。しかし、今回受けた租税教室はそういったイメージを払しょくさせてくれるようなそんな教室でした。なぜなら税金がなくなった社会はどんな暮らしになるのかとか、そもそも税金はどういう風を集められるかなどすごく分かりやすい説明だったからです。今までなんで自分のお金を国に納めなければいけないのかと思つていたけど、自分達がよりよい暮らしをするためにはしっかり税金を納めなくてはいけないんだと思つました。

エ 考察

租税教室を実施する前は、「なぜ税金を払うのか」疑問に思つたり、払いたくないと思つていたりした生徒が多かったが、「今、私たちの生活を支えているのは租税であり、社会を明るくするために、きちんと税金を払いたい」等税金を納めるという思いから「自分達の暮らしの向上のために納める、または自分達のためにお金を預ける」等と肯定的に捉えるようになった。

(3) 租税作品の作成

ア 実施にあつてのねらい

租税教室や授業だけでは生徒は受け身になりがちなため、生徒に作品を作成させたり、友達の作品を見せたり、聞かせたりすることで、生徒が主体的に考え、理解を深められると考える。

イ 実施の様子

(i) 3年生の租税作文

3年生は、租税教室を受けて、夏休みに租税作文を宿題として出した。その作品は、都城地区租税教育推移協議会事務局に提出し、応募した。その中で、3年生の租税の作文については10名もの生徒が受賞した。受賞内容は、宮崎県租税教育推進協議会銅賞に田代小夏さん、都城税務事務署長賞に内村七海さん、都城地区租税作文金賞に蔵元朱莉さん、銀賞に大浦勇飛君、假屋月乃さん、銅賞に、喜瀬駆君、田中七弥さん、酒井澄玲さん、中石幸美さん、吉村一乃さんが選ばれた。後日、都城税務署長を始めとする関係者が本校校長室で表彰式を行った。



【写真6 租税の作文の表彰の様子】

「納税について、義務と権利」

私は今年の3月、町の広報誌に「中学生が町のお金の使い道を学ぶために町役場を訪れた」という内容の特集に出ささせていただく機会がありました。それまであまり興味の無かった「税金」について深く考えるきっかけとなり、私の中の税金に対するイメージも大きく変わりました。

特集では、実際に町役場へ行き、町の税務財政課の方に町のお金（税金を含む）の使い道などを教えていただきました。お話を聞く中では、気になる言葉がいくつか出てきました。その中の一つが、「扶助費」でした。扶助費とは、高齢者や児童、障がい者の方に対して行う支援のための経費で、私の住む三股町では、この扶助費に特に力を入れており、県内の自治体や全国の類似団体と比較しても歳出予算内での割合が高くなっているそうです。後日、母に聞いてみたところ、思い当たる節があったらしく、また三股町の人口が増加傾向にあるとういことも、そういった理由があると考えられます。また、お話を聞く中で、私が衝撃を受けた話があります。それは、「借金」についてのお話です。借金と聞けば、悪いもののように考えてしまうかもしれませんが、一概にそうとは言いきれないようです。町の借金、いわゆる「町債」は個人の借金とは大きく異なる部分があります。単純に「お金が足りないから」という理由以外にも、借金をする理由があったのです。例えば今年、新しく街灯を増やすとします。ちょっと多めに増やすので、今年町民の負担も大きくなります。でも、ここで不満が生まれます。今年の負担を今年いる町民だけですべて負担してしまうと、将来街灯を利用する新しく来た人は得をして、今年いて来年には引越す人は損をしてしまいます。そこで出てくるのは、町債です。町債があることで、今いる人の負担を少し減らし、未来に利用する人の負担を少し増やす、そうすることで皆がずっと平等に負担して皆が気持ちよく町を利用し続けることができるのです。

今まで私はどうして借金なんかするのかと意味も知らずに思い、借金は絶対に悪いことだと思っていました。でも意味を知れば借金と聞いても「意味があるのかな」と思えます。このように、どんなことでも意味を知れば考え方やイメージがそれまでと大きく変わります。事実、私がそうでした。それと同じように、借金だけでなく税金自体も意味を知れば考え方が変わります。良いことに使われていると知れば納めようという気になるし、もちろん不正に扱われていれば、納める気持ちも

無くなります。納税は義務ですが、使い道を知るのには1つの権利ではないでしょうか。気持ちよく税金を納め、より良い社会にしていくなためにも私は、これからも税金についてたくさん学んでいきたいです。

【作文7 受賞した田代小夏さんの作品】

(ii) 2年生租税標語

2年生も3年生同様夏休みの宿題として標語を書いてもらい、公益社団法人青年部会に応募した。その内、2名が、平成29年度税に関する中高生親子短歌等コンクールの標語で入選した。支部長賞に8組の村尾優樹君の「税金は未来を創る 宝物」、奨励賞に2年4組の木脇大雅君の「納めよう 住み良い待ちをつくるため」が選ばれた。

・納めた税	大事な未来を	えがきだす
・納税者	増えるといいな	一人でも
・税金で	未来に大きな	ドア開く
・税金で	あなたが日本を	支えている
・税金は	ないといけない	いのち綱
・税金で	自分の未来	納めよう
・税金は	私たち世代で	繋いでいく
・考えよう	みんなで払う	税の使い道
・その税金	未来の日本を	作っていく
・日本の	未来を支えて	その税で
・その税で	みんなの生活	作り出す
・税金は	君を支える	助け舟
・税金で	生まれる未来	人の夢
・納めよう	住み良い街を	作るため
・子供だが	僕も小さな	納税者
・これからは	僕らが支える	納税で
・税金で	日本の未来を	支えてく
・納めよう	未来の日本	支える税

【表8 2年生の標語・川柳作品】

(iii) 1年生租税親子短歌

1年生も2年生同様夏休みの宿題として公益社団法人青年部会に5・7・5を生徒が考え、残りの7・7を保護者が考える親子短歌に応募した。その結果、3組の甲斐刀矢君が「納めたら 考えた いな その意義を みんなの町が 住み良い街へ」の作品で奨励賞に選ばれた。

・ <u>税納め</u> 自分の街を つくりだす 未来の子供 守れる街に
・ <u>住みやすい</u> みんなの街を つくるため ガンバレ仕事 納めよう税
・ <u>税金で</u> 国の平和 守られる 働く父母は 国のヒーロー
・ <u>税金は</u> 皆の幸せ 守るため 豊かに育む 心の支え
・ <u>大切な</u> 暮らしをささえる みんなの税 みんなで作ろう 豊かな社会
・ <u>身の回り</u> 見渡してみると 税金が 活かされているよ 僕たちの町
・ <u>税金で</u> いつか支える 僕の街 豊かな生活 安心な日本
・ <u>僕たちの</u> 税が集まり 国できる みんなで創ろう 明るい未来
・ <u>税金が</u> 立派な未来を つくりだす 幸せあふれる 笑顔の町
・ <u>ぼくたちの</u> 納めた税が 町つくる 笑顔あふれる 住み良い社会
・ <u>おさめよう</u> 無駄に使うな 皆の税 未来へ続く 大事な宝
・ <u>納税で</u> みんな暮らしを 支え合う 力を合わせて 明るい社会
・ <u>税払う</u> 国を育てる 意味を知り 納得できた 定めた金額

【表9 1年生の親子短歌作品】

ウ 実施後の生徒感想

租税の作文で入選した10名にアンケートを取ったところ、次のような結果になった。

<p>1. 作文を応募するにあたり、どのような方法で資料収集や学習をしましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生に聞いた (100%) ・家族に聞いた (30%) ・国税局のホームページを活用した (30%) ・その他の税に関するホームページを活用した (30%)
<p>2. 中学生の「税についての作文」に応募したことにより、あなたの税に対する知識や意識に変化がありましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変化があった (70%) ・変化がなかった (0%) ・やや変化があった (30%)
<p>3. 2の変化はどのように変化しましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までは、税にはどういうものがある、という風に使われているのかということを知らなかったが、それを知って、日常の生活で税の話題に関心をもつようになった。 ・最初、税金は義務だから払いたくないけど払うものだと思っていた。しかし、税金が私たちの暮らしを支えてくれていることを知り、税金について正しいことを知りたい、将来税金をしっかりと納めるようにしたいと思った。 ・今までは、テレビや新聞に良く載るような消費税などについてしかわかりませんでした。今回、作文を書くにあたり、たくさん調べ、復興税などのあまり表に出ない税にも関心をもつようになった。 ・税を納める意義がわかったので、なぜ納めなければいけないのかななどの疑問がなくなり、自ら税を納めようという気持ちになった。 ・今回、作文を書くためにたくさんの時間を費やした。中学生になってこれでもかというぐらい耳に入ってくる税金に関する事情をもとにひたすら考えたのでその頃を境に税金や、もっと飛躍して政治全般に対して今までほとんど興味がなかったのに、「もっと知りたい」と思

うようになった。今では公民の授業も始まり、興味は日々の勉強に活かされている。

・税金がどこに使われているのか気になるようになり、よく調べたり、親と税について話をしたりするようになった。

エ 考察

租税作文を作成するにあたり、生徒は自ら調べたり、教師に質問したりしたことで理解が深まり、租税に対する正しい知識を蓄えることができた。

ほとんどの生徒が意欲的に調べたり聞いたりしたが、一部の生徒はただ租税教室の内容を作文にしたり、短歌や標語の例をもとに作成した生徒もいた。

(4) 租税作品の展示等

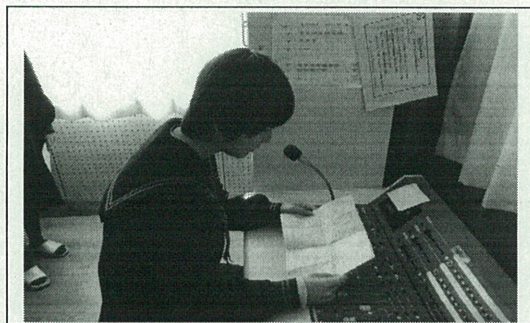
ア 実施にあたってのねらい

自分の作品が展示されたり、友達の作品を見たりすることで、租税に対する考えがマイナスのイメージからプラスに転換されること。

イ 実施の様子

(i) お昼の放送

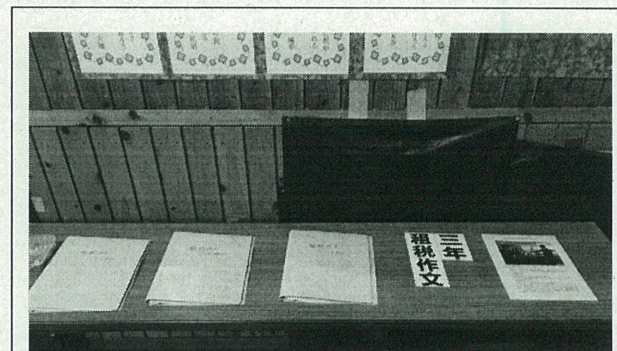
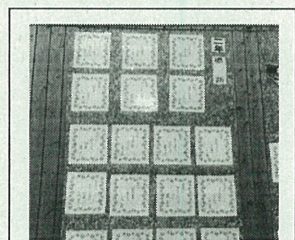
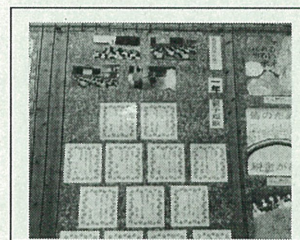
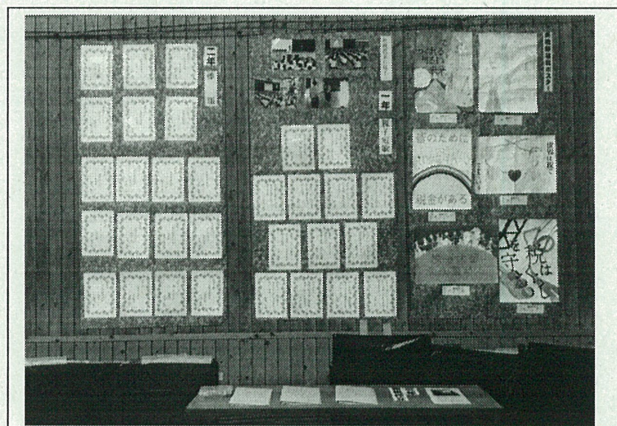
租税に対する知識や、同じ中学生がどんなことを考えているのか、また、1、2年生の作文のお手本として、入選した租税作文を書いた本人に給食の時間に放送してもらった。



【写真10 昼の放送の様子】

(ii) 展示

標語や親子短歌の入賞作品をプリントアウトして、租税の掲示板に掲示して紹介したり、文化祭の作品展示で租税作品の場を設けて紹介したりした。また、美術部に租税に関するポスターを描いてもらい、一緒に展示した。



【写真11 文化祭時に展示した生徒作品】



【写真12 美術部に書いてもらったポスター】

(5) 法人会と租税の授業の実施

ア 実施のねらい

租税について幼い頃に遊んだ人生ゲームを使うことで楽しみながら税に対する知識と自分たちの生活に租税が深く関わっていることを理解させること。

イ 実施の様子

宮崎法人会が大宮中学校で人生ゲームを活用しての租税教室を行っていたのを参考に、都城法人会の方と一緒に租税教室の授業を行った。また、取材にBTVケーブルテレビ、宮崎日日新聞社が訪れた。指導の流れは次の指導案の通りである。

第3学年4組 社会科学習指導案

指導者 小川 倫史

1 単元名 「政府の役割と国民の福祉」

2 目標

- 財政や税金の役割、日本の財政の課題について、主権者として関心をもち、意欲的に追究させる。
【社会的現象への関心・意欲・態度】
- 社会資本の整備や社会保障の充実などの財政に関する課題について、複数の統計資料を関連づけて読みとらせたり、グループで話し合ったりすることを通して、自分の考えをまとめさせ、発表させる。
【社会的な思考・判断・表現】
- 財政に関する統計資料などを、新聞記事やインターネットなどを基に収集・選択し、読み取ったことや考えたことを分かりやすくまとめさせる。
【資料活用技能】
- 身近な社会資本や公共サービスについて調べさせ、市場の働きに委ねることが難しい財やサービスを提供するという政府の経済的役割について理解させる。
【社会的現象についての知識・理解】

3 指導観

本単元は、学習指導要領公民的分野(2)のイに基づいて構成されている。この単元では、経済主体である「政府(財政活動)」について扱い、日本の財政のあり方や政府の役割、社会保障について取り上げること、個人、企業及び国や地方公共団体の経済活動を扱い、経済活動、市場経済、財政の役割について考えさせること等を主なねらいとしている。特に、この単元を通して、次世代を担う生徒が、民主主義の根幹である租税の意義や役割を正しく理解し、社会の構成員として税金を納め、その使い道に関心をもち、さらには納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるという自覚を育てる単元であると考える。

本学級は、男子18名、女子19名の37名で構成されており、男女仲良く何事にも一所懸命に取り組む学級である。社会科学習においては、学習意欲の高い生徒も多く、授業前の素問で小テストに向けて勉強したり話し合い活動にも積極的に取り組んだりしている。事前アンケートの結果は次の通りである。

① 国民の三大義務は何か。	・完納者(65%) ・1年間違い(25%) ・2年間違い(12%) ・全期間違い(8%)
② 税金を払いたいですか。	・払いたい(86%) ・払いたくない(14%)
③ 消費税は何%ですか?	・正解(97%) ・間違い(3%)
④ 消費税以外であなたが知っている税金には何がありますか。	・所得税(10人) ・酒税(4人) ・住民税(8人) ・たばこ税(3人) ・固定資産税(4人) ・印税(1人)
⑤ 税金は何に使われていますか。	・教育(8人) ・公務員(9人) ・施設の建設(8人) ・年金(2人) ・交通整備(2人) ・公共団体の運営(2人)

②の「税金を払いたいですか」の問いに対して、肯定的な意見が多いのは、7月に租税教室を行った要因が大きいと考えられる。しかし一方で③消費税以外の税や⑤税金の使い道について正しく、深く理解している生徒は少ない。そのため、税を身近なものとして捉えられている生徒は少ない。

そこで本時の指導に当たっては、都城税務署、法人会とタイアップして、人生ゲームを行いながら、税金の種類や使い道などを学習することで、人生に大きく税金が関わっていることに気づかせたい。そのため、

「⑤通し」の段階では、租税が身近なもので生活を豊かにしていることを理解させる。「④(なびあい)」の段階では、グループを8人の班員で構成し、1班につき、2人の法人会の方を配置することで、質問をしやすいう環境をつくり、他の班員の意見を聞く場を設けたりして理解を深めさせる。「⑥(しかめ)」の段階では、授業

を振り返らせ、未来を担う納税者としての自覚を促せるようにする。

このような学習活動を通して、三税野の目指す児童生徒像である「基礎的・基本的な内容と望ましい学習習慣を身に付けた児童生徒」の具現化につなげていきたい。

4 指導計画(全7時間)

主な学習内容	時間	評価計画
1 私たちの生活と財政	3 (本時1・2/3)	・税金の公平な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 【思考・判断・表現】 ・財政と税制のあり方について理解し、その知識を身につけている。 【知識・理解】
2 政府の役割と財政の課題	1	・政府の経済的役割に関心をもち、身近な生活から事例を探し、積極的に話し合いに参加している。 【関心・意欲・態度】 ・公債の発行について、納税者などのさまざまな立場から多面的・多角的に考察して、公正に判断し、自分の考えを表現している。 【思考・判断・表現】
3 社会保障の仕組み	1	・社会保障の考え方が生まれた歴史的背景とその意義について、歴史的分野の学習内容を踏まえて考察している。 【思考・判断・表現】 ・社会保障の基本的な考え方と日本の社会制度のあり方について理解し、その知識を身につけている。 【知識・理解】
4 少子高齢化と財政	1	・少子高齢化社会における財政の在り方について、身近な生活の事例や諸外国との比較を通して多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【思考・判断・表現】 ・少子高齢化の進展と社会保障の現状について、新聞記事やインターネットなどを基に資料を収集・選択し、的確に読み取っている。 【技能】
5 この章の学習を確認しよう。	1	・重要語句の意味や、各説に関する問いの答えを、分かりやすく表現している。 【思考・判断・表現】 ・単元全体の重要用語の意味を正確に理解している。 【知識・理解】

5 本時の目標

- 税金の公平な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。
【思考・判断・表現】
- 財政と税制のあり方について理解し、その知識を身につけている。
【知識・理解】

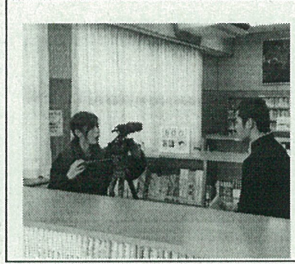
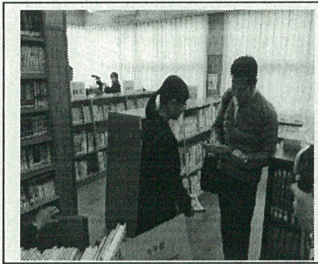
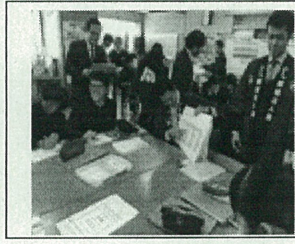
6 授業仮説

人生ゲームを通して、楽しみながら身近な税について学ぶことで、税について関心をもち、正しい知識と未来を担う納税者として社会や国の在り方を主体的に考えるようになるであろう。

7 学習指導過程

段階	学習内容及び学習活動	指導上の留意点及び評価	資料・準備
通し	＝着席・黙想・座礼＝ 1. 講師紹介を聞く。 2. 授業の流れの説明を聞いて学習について見通しをもつ。 3. 本時の学習課題を確認する。 ○自分と税金はどのような関わりがあるのだろうか。	○留意点、☆評価【評価の方法】【評価する観点】	・ポロイトボード ・資料
通し	4. 個人で考える。 ・養子転がし、職業を決める。 ・職業ごとの年収を知り、生涯年収を計算する。 5. 班(集団)で学び合う。 ○人生ゲームを進めながら、学習を進める。 ・給料明細の見方 ・給与から実際に受け取れる手取り額 ・人口減少と高齢化 ・人口構成の推移 ・子育て費用と学習費	○職業ごとに年収を知り、人生の展望をもたせる。 ☆ 税金の公平な負担について、政府や納税者などの立場から多面的・多角的に考察し、公正に判断している。 【思考・判断・表現】 ☆ 財政と税制のあり方について理解し、その知識を身につけている。 【知識・理解】	・資料 ・電卓
通し	6 本時の学習を確かめる。 ・収支確認と結果の要因をまとめる。 ○生涯に必要なお金の額やその内訳を理解したり、税が身の回りの生活に大きく関わっていたりしていることを理解している。 ＝座礼＝	○授業を通して、租税に対する正しい認識と、未来を担う納税者としての自覚をもたせる。	・プリント

【指導案13 租税教室の授業の流れ】



【写真14 租税教室の様子】

ウ 租税教室を終えての生徒の感想

○私は、前まで税金を払うのが嫌でした。だけど、今日の租税教室を受けて、たくさんの保険料や税金が自分や多くの人のために使われていることを知り、払ったほうが良いなと思いました。保護者が支払う小・中学校の教育費の総額が多くてびっくりしました。小学校で税による補助が、1年間で84万8千円、(6年間なので、508万8千円)、中学校で1年間に97万9000円(3年間なので、293万7千円)というとても大きなお金(小学校と中学校で、802万5千円)を補助してもらっていることは全く知りませんでした。学校に通うことができるというありがたさを忘れないようにしようと思いました。仕事をしていて上手くいっていても、時に

はアクシデントが起こるかもしれないので、大人になるにつれて人生の知識をつけていこうと思います。

○租税教室と聞いて、難しいのかなと思っていたけど、人生ゲームを使ったことで楽しく学ぶことができました。将来、順調な人生を送れると思っていたら大間違いでリストラされたり、保険費用がかかったり赤字になってしまいました。税金は良く聞くものしか知らなかったけど、あらゆる場面で様々な税金がかかるということを知ることができました。今回、租税教室に参加して、人生の中で転職やアクシデントがあった時、たくさんのお金がかかるけど、そんな時に臨機応変に対応できるように知識が必要だということ学びました。税金を払うということはとても大切だと知りました。また、保険の仕組みも漫画などを使って学び、身近に感じることができました。

○私は今日の租税教室を受けて、色々な税金について知ることができました。人生ゲームというゲームでみんなと楽しみながらより詳しくできたのはとても良かったと思います。実際に職業などを決め、月収や支出など私たちが大人になってからしないといけないことがわかりました。私は、結果赤字となってしまいました。やっぱりお金の使い方は大切だなと思いました。これからの日本は、少子高齢が進んでいくので、一人あたりの税金が高くなることも初めて知りました。そして、私たちが今通っている中学校の教育費と小学校の教育費は、思っていた以上にかかっていてびっくりしました。これを9年間で計算したらびっくりするお金になっていました。今日の租税教室はとても楽しくわかりやすかったです。

(6) 租税通信の発行

ア 実施にあたってのねらい

生徒はもちろんのこと、保護者にも目を通してもらい、家庭内で租税について話をしたり、保護者にも租税に対

する正しい考えをもってもらったり
することがねらいである。

イ 実施の様子

租税通信を2か月に一回のペースで
発行した。内容は、生徒作品の租税の
作文や標語、親子短歌を紹介したり、
租税教室の内容、租税のクイズなど多
岐にわたる内容を載せたりした。

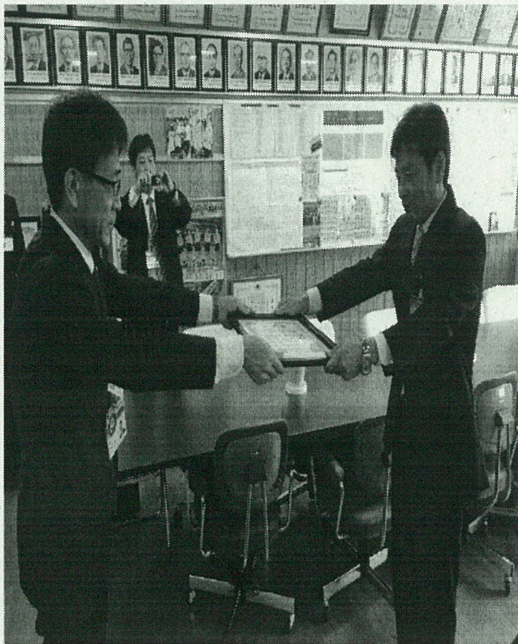
三股中学校租税通信

No. 1

5月18日(木)
文責 小川 倫史

三股中学校が租税教育委嘱校に選ばれました。

委嘱状を受け取る本校校長先生



○租税教育委嘱ってなに？

生徒に租税教育の推進と充実を図ることを目的として、三股中学校がモデルとなって租税教育について生徒に学んで、理解を深めて、将来税金を納める納税者として成長してもらうためのものです。

○租税って何？

租税とは税金のことです。税金は身近なものに使われています。例えば、みんなが使用している机や椅子、学校の設備、公園など様々なものが税金から作られています。

○もし税金がなかったら？

税金で作られているものはたくさんあります。例えば道路もそうです。また、教育についても税金がたくさん使われています。他にも警察、消防など生活には欠かせないものです。もし、税金を納めなかったら、自分の命を守ったり、お金などの財産を守るために警察がいなくて自分で管理したり、守らなければいけません。また、家が火事になったときに、莫大なお金をかけて自分で消化するしかありません。それが、火事を消すことができず、燃え尽きるのを待たなければいけません。今、私達が安心して生活を送れているのは、税金を私

○租税クイズ

1. 食料品を軽減税率の対象としている国でも、高級な食料品などは標準税率の対象としています。フランスでは、次のうち標準税率の対象になっているのはどれでしょうか。

【1】キャビア 【2】フォアグラ 【3】トリュフ 【4】レストランでの飲食

2. たばこの増税が決まりました。たばこには、たばこ税(国・地方たばこ税、たばこ特別税)がかかっています。紙巻たばこ1箱(20本入)には、どのくらいのたばこ税がかかっているのでしょうか。(消費税は除きます。) 【1】164.88円 【2】204.88円 【3】244.88円

3. ガソリンには、揮発油税と地方揮発油税がかかっています。ガソリン1ℓ当たり、どのくらいの揮発油税等がかかっているのでしょうか。(消費税は除く) 【1】43.8円 【2】53.8円 【3】63.8円

4. 国や地方公共団体が負担している公立中学校の生徒1人あたりの1年間の教育費は、およそいくらか。(26年度) 【1】107,000円 【2】1,070,000円 【3】10,700,000円

5. 市(区)町村が行うごみ処理にかかる費用は、国民1人あたりおよそいくらでしょうか。(平成27年度) 【1】180円 【2】1,800円 【3】18,000円

【解答】

1. 正解は【1】キャビアです。

フランスでは、キャビア・フォアグラ・トリュフを3大珍味といっているのですが、キャビアは輸入品なのに対し、フォアグラとトリュフはフランスの産品ですので、農業・畜産振興のために軽減税率としています。レストランでの飲食は、イギリス・ドイツなどでは標準税率の対象としていますが、フランスでは軽減税率の対象にしています。

2. 正解は【3】です。

紙巻たばこ20本(1箱)当たりのたばこ税は、国分122.44円、地方分122.44円合計244.88円です。

3. 正解は【2】です。

ガソリン(揮発油)には、1ℓ当たり揮発油税が4万8,600円、地方揮発油税が5,200円、合計5万3,800円の税金が課されます。したがって、ガソリン1ℓには、53.8円の揮発油税等がかかっていることとなります。

4. 正解は【2】です。

ちなみに小学生は1人あたり約940,000円を負担しています。

5. 正解は【3】です。

全国のごみ処理費用の総額は約2兆3,000億円です

【通信15 租税通信No. 1】

(i) 租税通信の抜粋

日本は累進課税といって、上の表のように所得(給与)に応じて納める税の額が変わります。所得が多い人の税負担(納める税の額)は大きくなります。

(例) 年収4000万円の人は税の割合が45%なので、1800万円税金を納めることとなります。

年収350万円の人は税の割合が20%なので、70万円税金をおさめることとなります。

スウェーデンの所得税は、56.6%、消費税は、25%と高い税率ですが、国民の満足度調査をしたところ、非常に高い結果になっています。その分、教育費、年金、出産費用がすべて無料です。逆に税金の安い

国もあります。納める税金が安いかわりに、病気や怪我をした時の医療費が極端に高くなったり、火事になった時や救急車で運ばれたときに費用を請求されたりします。みなさんは税をたくさん納めて、福祉が充実するほうが良いのか、納める税が少ない代わりに、何かあった時に請求される額が大きいのとどちらが良いですか。日本は今、その選択を迫られています。

(ii) 保護者からの返信

・私はたくさん納めても良いので保障をきっちりしてほしいです。それから、子どもの人数に応じてたくさんいる人には負担を減らすようにしてもらいたいです。うちの学費は上〇人で年間 200 万程かかっています。私たちは負担できないので、子どもたちが奨学金で学費、生活費を払っています。どうか考えてあげたいと思います。

・やはり、税金の負担が多くても教育費や医療費が無料になるのであればそれが一番良いと考えます。こうやって租税通信を通して、税金のこと、それから政治について子どもとも話をするようになりました。しっかり一つ一つ考えていくことが大切ですね。

・正直に言うと、税金は納めたくありませんが、子どもや日本の将来のことや、社会保障など様々なことを考えると、そういうわけにもいきませんよね。子どもには自分のことだけを考えるのではなく、社会全体のことも考えないといけないねと話しました。

(ウ) 考察

生徒はもちろんのこと、保護者も租税について関心を持ち、子どもと税に関する話をする機会が増えた。しかし、一方で租税通信を保護者に見せていない生徒もいた。

(7) 定期テストで租税に関する問題を出題

ア 実施にあたってのねらい

定期テストで税に関する問題を出題することで税に関する基礎知識を身に付けることと、社会情勢に目を向け、税についての関心を持たせることがねらいである。

イ 実施の様子

1年、2年、3年と各学年で段階的に学習したことと関連付けて出題した。出題した問題は次のとおりである。

1年定期テストで出題した問題

4 租税に関する次の問題に答えなさい。

問1 奈良時代では、戸籍にもとづき6歳以上の人々に田が与えられ、死後は国に返還させる法律ができた。この法律は何か。

問2 問1の田のことを何というか。

問3 問1の法律はやがて人口の増加などで問2が不足した。そのため、新たに開墾した土地の永久私有を認めた。このことによって私有地が増加した。この永久私有を認めた法律は何か。

問4 次の奈良時代の税について調べると次の表のようにまとめられた。次の表の語句の意味にあてはまる説明を次の(A)～(E)から選び、記号で書きなさい。

問題番号	語句	語句の意味
(ア)	租	
(イ)	調	
(ウ)	防人	

- (A) 労役のかわり (B) 稲 (C) 麻布
(D) 北九州北部の防衛 (E) 特産物

2年定期テストで出題した問題

5 租税に関する次の歴史の問題に答えなさい。

問1 次の資料1は、第1回衆議院議員総選挙の様子である。この時、どんな人に選挙権が与えられたか。

3年定期テストで出題した問題

問6 資料3は歳入にしめる国債の割合と国債残高の推移を示している。国債の発行を慎重に行わなければならない理由を、「返済」「将来の世代」の語句を使って書きなさい。

問7 社会保障費の増加をまかなうために、2014年に税率が5%から8%に引き上げられ、今度は保育料の無償化するために10%に引き上げられる税金は何ですか。

問8 日本は現在、「高福祉高負担」か「低福祉低負担」かの選択を迫られている。自分はどちらが良いか答え、その理由を書きなさい。

(ウ) 考察

生徒は、定期テストに出題されるという事で、しっかり覚えたり、勉強したりした生徒が多かった。しかし、租税の学習としてではなく、社会の重要語句や学習内容としか捉えていないように思われる。

7 成果と課題

① 研究の成果

- 税務署や法人会の方と租税教室を開いたことで、生徒の理解が深まり、税を払いたくないと思っていた生徒が、必要なものであり、税をたくしだいたいと考えるようになった。
- 3年生が租税の作文、2年生が標語、川柳、1年生が親子短歌の作品を夏休みの宿題として出したので、国語科や家庭と連携を図りながら進めることができ、生徒だけではなく、保護者にも考えてもらえる機会となった。
- 租税通信を定期的に発行したり、生徒が作成した作品を各学年の社会科教諭を中心に、学級担任や学年の教師で選考を行ったりしたので、職員全体で税について考えることができた。また、美術部にも協力してもらい、租税のポスターを作

成してもらい、文化祭の展示で紹介したので、生徒全体はもちろんのこと、保護者にとっても租税について考える機会にもなった。

② 今後の課題

- 租税教室を開催したのが3年生のみだったのでその他の学年では、租税について正しい知識や認識のない1、2年生では、税を払いたくないなどの意見等間違った考えをもっている生徒がいた。そのため、全学年を通して発達段階に応じた系統的な租税教室を行う必要がある。
- 掲示物を定期的に張り替えたが、作品を募集したり、作品を選定したりする時期のみで、生徒に税について毎月考えてもらえる機会を設けられなかった。今後、毎月〇のつく日に税について考える機会を設けたりして定期的に税について考える機会を設けたい。
- 特定の教科との連携はできたが、すべての教科の連携ができなかったので、これからすべての教科における関連を模索し、別葉を作成して租税教育に取り組みたい。

8 参考文献

- 国税庁ホームページ
- 内閣府 2017年「高齢社会白書」
- 宮崎県税務署パンフレット
- 全校関税会総連合会ホームページ
- 東京国税局、大阪国税局、福岡国税局、熊本国税局、ホームページ
- 中学校学習指導要領解説社会
- 中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間
- 中学校学習指導要領解説道徳
- 中学校学習指導要領解説学級活動
- 租税教育委嘱校長・担当教諭会参考資料